

山麓探偵団通信

8・9月号

残暑お見舞い申し上げますとは、なかなか率直に書けない昨今の猛暑であります。

みなさま、今は探偵団のことなど、考える余裕がないとおっしゃる方もありませんが、次回九月の探偵団までは、過ぎしやすくなること、ぜひに請け合いますので、どうかこの通信の最後まで、お目とおしを！ ください。

七月の探偵団は、戸高雅文団長をふくめ八名の参加で、西丹沢大瀬の滝へ、一泊で催行しました。

◎参加者の感想(二名)

今回の探偵団は、山中湖から徒歩で西丹沢の沢を巡る一泊二日のスペシャルコースだった。

初日は、峠道を雨に濡れて生き生きと輝く木々を眺めながら、ゆっくりと歩いてみた。

耳を澄まして林道を歩くと、気分はいにしへの旅人。現代の蓑、ゴアテックスのレインウェアに身を包み大昔からあるであろう道を歩いてゆくと、川のせせらぎが聞こえてきて副団長からそれが源流だと知らされ感動を覚えた。



休憩地点で水を汲み、乾いた喉を潤してみると、これが想像していた以上に美味しい！ ミネラルたっぷりの水を補給

した後は、今まで以上に足が軽くなり今夜の野営ポイントの川原まで一気に着いてしまった。川原でタープを設営し、焚き木を集めて皆で団長の到着を待つ。



夕食は、シェフの繊細かつダイナミックな料理を楽しみ、焚き火を囲んだ食後のセッションタイムでは、生きる喜びさえ感じ

翌朝は川のせせらぎで目覚め、目の前を流れる川の、なんとも美しい姿に見惚れた。おいしい朝食後、団長から本日のコースのレクチャーを受けて滝に向かって出発。

前日の雨模様が嘘のような快晴で、汗ばみながら一同は林道を進んだ。そしていよいよ滝に到着し、この旅もクライマックスに！

水しぶきをあげ



て落ちる滝を近くから眺め、触れて各々が自然との対話を楽しんだ。私は、未来の子供たちに美しい自然を残したいと強く感じた。遊びを通して、大切な何かを得るとはこのことなのか！ と改めて感心した。

(K・I)

四、五年ぶりに参加する山麓探偵団。それに私にとっては、はじめての野営

でした。

《野営場所は河川の傍》

荷物を置くとメンバー各々が動き出します。薪を集めるひと、天幕を張るひと：遅れまいと薪を集めようとしてますが、勝手がいきません。

戸高さんから集める薪の太さを教えていただき、なんとか薪集めを終えます。

その頃には、料理長のタケハルさんが、下ごしらえを終えていました。

戸高さんが木に括り、点したランタンの明かりと、中央の焚き火の炎が大きく胸に迫ります。

料理長の腕は目を瞠るものがありました。あのトマトや鶏肉の味は、今でも思い出すことができます。

翌日の朝。足に痺

れを覚えながらも、快適に目が覚めます。すでに準備にとりかかっている料理長。夜と朝、これだけのもを食べながら食事を終えます。

天幕を外し、使わずにすんだ薪を山に還します。

「出来るだけ来たときと同じように戻してください」戸高団長の言葉が、とても重厚にひびきました。

《次に向かうは滝》

山道を歩き続け、着いたところは：まったく想像外の景観でした。滝の間近に立つと、風に吹き上げられるように両腕が横に上がります。

飛沫で眼鏡はすぐに覆われ、全身が水浸しになります。気がする余裕はありません。この場所に居させてもらえ



ました。滝というより、この場所が、なにか特別なもののように感じました。帰り道は辛かったけれど、それを上回る感動が、胸いっぱい詰まっていた

(Y・I)

【写真提供：戸高団長・石川慶一郎さん】

◎九月の探偵団活動の案内

猛暑の夏を無事過ごし、初秋の山麓を探訪しましょう。九月は、三合目付近の“意外な場所”を、おなじみ伊藤浩美団長の案内で訪ねます。

- ・ 日時：九月十三日(木)十五日(土)
- ・ 集合：朝九時半に「あみん」
- ・ 持物：お弁当、雨具、双眼鏡など
- ・ 参加料：二三〇〇円
- ・ 締切り：活動日の三日前まで

* 十月の予定二十五日(木)、二十七(土)

◎お知らせ！

九月二日午後四時からフジテレビ「晴れたらいいね！SP」の中で、探偵団として伊藤さんが、樹海の洞窟を案内する場面が出ます。ご覧ください。

発行 山麓探偵団 事務局

〇五五五・六五・七〇二三

編集人 樋口 裕峯